

資料編

鳥取県の幼児教育の在り方検討委員会委員名簿

	氏 名	所属等	備考
学識経験者	中嶋 邦彦	鳥取短期大学幼児教育学科教授	座長
	森上 史朗	子どもと保育総合研究所代表 前青山学院大学教授	
	奈良井 栄	県立厚生病院小児科部長	
	松本 滋	東伯町立八橋幼稚園長 元公立中学校長	
市町村行政関係者	徳本 和正	東伯町教育委員会教育長	
	石河 和子	岩美町教育委員会教育委員	
	岩成 純代	河原町住民福祉課児童福祉係長	
	牧 美恵子	鳥取市保健センター母子保健係長	
幼稚園・保育所関係者	前田 美佐子	国公立幼稚園長会（気高町立宝木幼稚園長）	
	吉田 敏夫	私立幼稚園協会（鳥取第2幼稚園長）	
	大橋 和久	子ども家庭育み協会（倉吉東保育園長）	
小学校関係者	佐賀 有道	境港市立中浜小学校長	
	河本 恵子	気高町立浜村小学校教諭（第2回～）	
	橋本 祥子	同上（第1回）	
保護者	浜 千枝美	公立幼稚園（境港市立わかまつ幼稚園）	
	伊藤 幾子	私立幼稚園（愛真幼稚園）	
	木嶋 徹	保育所（わかば台保育園）	
社会教育関係者	近藤 剛	鳥取県社会教育委員 鳥取短期大学幼児教育学科講師	
	麴谷 昭久	大山町立所子保育所長 前大山町教育委員会課長補佐兼社会教育主事	

鳥取県の幼児教育の在り方検討委員会における協議経過

会 議	開催期日	内 容
第 1 回	平成 1 5 年 1 0 月 9 日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ○検討委員会の趣旨と策定スケジュールについて ○座長の選出 ○鳥取県の幼児教育の現状と課題について自由討議
第 2 回	平成 1 5 年 1 1 月 2 8 日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児教育振興プログラム骨子原案について <ul style="list-style-type: none"> ・めざす子ども像と基本的な考え方 ・幼稚園・保育所の保育内容 ・家庭教育への支援
	平成 1 5 年 1 2 月	○県民コメント募集 (新聞掲載)
第 3 回	平成 1 6 年 1 月 1 6 日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児教育振興プログラム骨子案について <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県らしさ ・幼稚園・保育所の保育内容
第 4 回	平成 1 6 年 2 月 1 9 日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児教育振興プログラム案について <ul style="list-style-type: none"> ・体系表 ・取組事例 ・関連施策の状況
第 5 回	平成 1 6 年 3 月 2 5 日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児教育振興プログラム案について <ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの活用 ・掲載資料

幼児教育に対する意見のまとめ

- 幼児教育振興プログラム策定の参考にするため、幼児教育の課題や充実に向けた取組の方向などについて、県民の意見を募集
- 応募の状況… 13件
- 主な内容
 - ・保育をする中で、昔から継承されてきたいわゆる「不易」の部分を大切にしながら、子どもにとって何が必要なのかしっかりと考え、系統性をもって指導にあたる必要がある。
 - ・鳥取県の豊かな自然の中で生活していても、その豊かさや良さをなかなか実感していないことが多い。そこで、我が園では、地域に出かけ、豊かな自然の中で活動することを大切にしている。自然の豊かさは、幼児期から体験を通して教えていきたい。それが、幼児の豊かな感性を育てるとともに、ふるさとを誇る気持ちにつながると思う。
 - ・保育所・幼稚園において、幼児自らが選ぶ活動を大切にする保育の中では、幼稚園教員・保育士の指導力等、特に人的環境が強く影響する。教員・保育士の指導力、幼児の生活体験の違いにより、幼児の行動力・表現力・社会性・道徳性・知識理解力等に差が大きく見られ、小学校入学以降の学力に関係すると思う。小学校までに身につけること、必要な体験について具体的な成長の目安を示し、評価できるようにすることが必要である。
 - ・保育所・幼稚園のどちらにも共通するカリキュラムを作成することが必要だと思う。
 - ・親が子どもとしっかり向き合う子育てができていない。両親ともにスポーツ、趣味等を持っていて楽しみたいので、休日や夜に体育館等に連れ歩いたり、娯楽施設、観光地、買い物等に行ったりすることが多い。親子共通の体験をして子どもは喜び親も満足するが、一過性の経験で終わりがちである。
 - ・親の子どもへのかかわり方を学ぶ機会をどうしていくかが、課題だと思っている。幼稚園や保育所は、親支援の役割も担っている。教職員の数が不十分な勤務態勢の中では難しいが、親支援の重要性を感じている。
 - ・家庭・地域の教育力の低下や子育てに不安を持つ保護者の増加などの現状が見られる。家族構成の変化や地域社会の構造の変化など、園児が育つ環境は大きく変わってきており、家庭や地域の中で子育てを気軽に相談できない状況になっている。今後、幼稚園・保育所の「子育て支援センターとしての役割」がますます重要になってくると思う。
 - ・幼稚園・保育所が連携し、公立・私立の別にかかわらず、また、広域入所の場合であっても子どもの情報を交換できる体制づくりが必要である。
 - ・障害等により配慮の必要な子どもの状況が、保育所・幼稚園に入園する前から把握でき、その子にあった施設環境の下で保育・教育ができる体制づくりが必要である。
 - ・人間の人格形成の基本は、幼児期。幼児期を義務教育化してすべての子どもに人肌の感じられる温かい生活環境と教育を与えられるようにしなければならない。保育にあたる人員も3～5倍にして、職員と幼児がなるべく1対1でかかわれるくらいに充実させていくことが必要である。人の増員ができれば、雇用の促進にもなるのではないか。

鳥取県幼児教育振興プログラム

平成16年5月発行

発行：鳥取県教育委員会事務局小中学校課

〒680-8570 鳥取市東町1丁目271番地

TEL：0857-26-7509

FAX：0857-21-7525